

○議長 辻本 一夫君

次に6番、本田議員の一般質問を許します。本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

皆様おはようございます。6番、本田です。一般質問通告書に沿って質問させていただきます。今回の一般質問は海に面した芦屋町だからこそ実現可能であり、海を活用した観光による町のにぎわいづくりとなる芦屋港活性化計画についてお尋ねをします。

芦屋の海について少し述べさせていただきますと、私は小学生の頃、地域の子供会の行事としてたくさんの子供たちと一緒に、あるいは親に連れられ芦屋海水浴場や夏井ヶ浜で夏の海を楽しんだものです。話が古くて半世紀ほど前のことになりますが、当時の芦屋海水浴場は海の家からの距離がとても近く、すぐに海に入ることができました。また、子供の私にはとても沖のほうまで泳ぐことはできませんでしたが、現在はテトラポットのあるところまで歩いていくことができます。時の経過とともに潮の流れに変化があり、芦屋海水浴場は年々広大な砂浜として広がっていき、このことが砂浜の美術展を開催できる基礎となり、今年は3年ぶり開催となる「あしや映像展2022」として、数年前より名称を変えて芦屋町のみならず地域周辺に定着した人気のイベントに成長しています。今後も広大な砂浜を活用したマリンレジャーやイベント等の開催により、芦屋の海の魅力が広がっていくことを楽しみにしているところです。

このようなイベント等は海のない市町村では開催することができず、また、海に面していてもある程度の広域に広がる砂浜がなくては開催が難しく、その観点からすると芦屋町はイベント開催に適した場所を持っており、たくさんのお客様がお見えになった際の広大な駐車場も確保しており、さらには隣接した海浜公園は人気のエリアになっています。様々なイベントが開催できる環境が整いつつあり、このイベント開催を通して芦屋町が海を活用したまちづくりを行う上で、海辺のにぎわいが町民の方々にとっても大きな影響を与えてくれるものだと考えます。また、海が人に与える影響を幾つか紹介しますと、寄せては返す波の音、広い砂浜、きらきらとした日差し、マリンスポーツなど、イメージとして海に対しては華やかな生き生きとした感じを持っている方も多いかと思います。

このように遊び場としての海の顔と、日頃から仕事などが忙しく特に精神的な疲れやストレスが取れないという方には、海の持つ癒し効果は、海の成分と私たち人体を構成している成分はとても似ているらしく、海から絶えず聞こえてくる波の音は母親の胎内の音によく似ているものとも言われております。また、青い海の色には鎮静効果やリラックス効果があるとされています。色には人の気分を変え、場合によっては健康面に影響する場合もあると言われ、様々な効果やパワーが秘められているようです。海の青い色には心を静め落ち着かせる効果や、見るだけで体温を下げてくれるなどの効果があると言われ、私たちが青い色を目にしたとき、色の持つ効果によ

って副交感神経が優位に働き、血圧や脈拍・体温が下がり、呼吸もゆっくりとなるようです。脳内にはセロトニンと呼ばれるホルモンの分泌が促進され、不安や恐怖感、いらいらなどのマイナスの感情が軽減され、体がリラックスした状態になるようです。また、鎮静効果によって体に感じている痛みが和らぎ楽になったと感じ、心が穏やかになると集中力もアップし思考力が高まるので、リラックスしたいときにはもちろん、仕事や学業の合間にリフレッシュがしたいときにも海を眺めるのはお勧めとされておりま

このように芦屋町では、海がある様々な観点から人の交流といった利点を生かしたにぎわいづくりとして、芦屋港が新たな観光スポットとして変貌しつつあります。数年前から事前準備してきた芦屋町にとって、大きく観光部門としての芦屋港が動き始めています。ただ残念ながら、この変貌ぶりの予定等に地域住民の方々からは、「人から聞いたり広報あしやを見たり情報収集をしているのだけど、話の内容が当初の計画であったり変更部分であったり今後検討している部分だったり、あるいは以前、芦屋町で話題になったリゾート開発との違いとよく分からない。」との声をお聞きします。以上のことから、芦屋港活性化計画とレジャー港化について決まったこと、変更になったこと、検討していること、今後の課題等をお尋ねいたします。

件名1として、芦屋港活性化計画を基本としつつ、計画の内容と現在の進捗状況についてお尋ねをいたします。

要旨、芦屋港の活用・活性化は、芦屋町が福岡県と協議・連携しながら事業の推進をしています。そこで、事業の概要と現状の推進状況及び今後の課題や将来展望についてお尋ねいたします。

**○議長 辻本 一夫君**

執行部の答弁を求めます。芦屋港活性化推進室長。

**○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君**

芦屋港の活性化は、遠賀漁業協同組合芦屋支所が使用しているエリア以外はほとんどが活用されていない芦屋港を芦屋町の地域振興のために有効活用しようということから、平成21年度から取り組んでいるものです。芦屋町の強みと魅力である海を生かした観光振興のため、既存施設を有効に活用しながら求められる機能をニーズに沿った規模で導入しようというもので、これによって芦屋町の観光振興、地域経済の振興に寄与しようというものです。この考え方を取りまとめたものが平成31年3月に策定した芦屋港活性化基本計画となります。

芦屋港レジャー港化における施設整備におきましては、活用できる既存施設を有効活用するとともに持続可能なものとなるようランニングコストを意識した施設整備とし、できることから取り組む段階的整備を図る方針を掲げています。また、芦屋港や芦屋海浜公園に来訪された方が町内を回遊し、一定の消費をしてもらうことで町内の経済効果を高める目的があります。さらに芦屋町のファンになっていただき、起業や移住・定住につながるよう各種施策が連動することで

令和4年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

芦屋町の地方創生の効果を発揮するという目的もあります。このように、玄海レク・リゾート構想とは全く異なるものでございます。

次に、計画の概要について御説明します。

芦屋港においてはプレジャーボートの係留施設となるボートパークや海釣り施設、飲食・直売施設、観光集客施設を新たに整備するとともに、既存の緑地帯は一部の再整備や、より使いやすいように必要に応じて改良するなどの整備、隣接する芦屋海浜公園や芦屋海岸の有効活用を図ります。さらに、これらのエリア一帯の管理運営やマネジメントを担う運営組織の設立、経済効果を生かすための人材育成や機運醸成などを行います。

次に、現状について御説明します。

芦屋港活性化基本計画は平成31年3月に策定し、その後、福岡県からのレイアウト変更の提案を受け、令和2年5月に計画を一部変更しています。この変更の主なものは、ボートパークと海釣り施設の位置や規模となります。また、この変更に伴い福岡県の管理する物流機能の位置を集約するとともに当初計画していた飲食・直売施設の新設は行わず、上屋を活用した複合施設へ機能を導入することとし、年次計画を見直しました。

現在はこの計画を基に、特に今後の検討課題を解消するために令和2年度から各種事業に取り組んでいるところです。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

それでは、基本計画が実施された場合の効果見込みについてお尋ねをいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

芦屋港活性化基本計画では年間25万人、芦屋港エリアでの消費額を年間約26億4,000万円と試算していました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響による観光動向の変化をはじめ、現在施設の詳細を検討しているものもあるため、全体の効果については今後見直した上で示していく考えでございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

令和4年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

大変大きな計画であり、実施項目も多岐にわたると考えられます。その中から、今後の課題についてお尋ねをいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

芦屋港活性化基本計画では、大きく次の5つの検討課題を示しています。

1. 港湾計画の改訂、2. 管理運営方法と運営主体、3. 町民の機運醸成と担い手育成、4. 民間誘致やテナント募集のための環境整備、5. 芦屋町の観光施策と一体となった事業推進となります。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

今、お聞きしました基本計画の概要と変更点及び今後の課題について、どのように現在取組をされて、進捗状況がどのような状況であるのかについてお尋ねをいたします。

現在のその中から、基本計画から変更されたボートパークと海釣り施設、物流機能の移転集約、飲食・直売施設部分の進捗状況についてお尋ねをします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

ボートパーク、海釣り施設、物流機能の移転集約につきましては福岡県事業となりますので、福岡県から説明を受けている進捗状況を御説明します。

まず、海釣り施設はボートパーク整備に当たって必要となる波除堤という波の影響を和らげる堤防の新設が主なもので、これについては昨年度より基礎ブロックの製作が始まっており、今後、工事となる予定です。ボートパークは来年度設計を行い、その後工事となり、いずれの施設も令和6年度中に竣工する予定となっています。物流機能の移転集約は現在、防砂フェンスの設置や野積場の整備工事が行われており、本年度中に竣工する予定でございます。

次に、芦屋町が担う事業の進捗状況について御説明します。

飲食・直売施設は活用できるところから整備する段階的整備の基本方針の下、当初はボートパークの整備に合わせて開業できるよう新設し、上屋が活用できるようになった段階で機能移転を計画していました。しかし、レイアウト変更に伴い上屋の活用が前倒しとなったため、新設ではなく上屋への機能導入に変更したものでございます。この上屋活用につきましては当初、民間活

令和4年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

力導入によるリノベーションを想定していましたが、調査の結果、民間投資が期待できないことや国の制度廃止などから効果的に事業を推進するために民間活力を断念し、補助金を有効に活用した公共整備の方針としまして、長期的な維持管理コストの試算を基に「施設の活用」と「解体し、新たに必要な規模で整備する」という2つの案を基に現在、施設所有者である福岡県と協議調整を行っているところです。ここに導入する機能につきましては、飲食・直売、観光案内、交流スペース、サイクルステーションを想定しています。

一方で、飲食・直売につきましては現在、外部人材と関係職員で検討チームを立ち上げるとともに、町内事業者の方々からワークショップにて意見を聞きながら施設の在り方の検討を進めております。また、直売所で売れる商品をそろえるために、芦屋産品の発掘や商品開発の講座に取り組んでいるところでございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

変更された部分の進捗状況は分かりましたが、事業全体の進捗状況についてお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

計画変更に伴う施設以外のところにつきましては、プロムナードや緑地帯などがございます。上屋と同様に現在、福岡県と協議調整を行っているところです。また、芦屋町事業として本年度より、観光集客施設となる砂像の屋内展示施設の設計を行っているところです。

一方で芦屋海浜公園を含んだエリア一帯の管理運営・エリアマネジメント、それに伴う運営組織の形成については各施設の管理運営方法を指定管理者制度とし、一体的な管理運営・マネジメントを行うことで効果的かつ効率的な運営やエリア価値の維持・向上、イメージアップなどを目指すこととし、そのための運営組織形成に向けて検討を進めています。この業務を推進するために、今年度より外部人材2名と外部アドバイザー2名を登用しているところです。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

外部人材の登用は先進的な自治体では積極的に取り組んでおられ、今回芦屋町も登用したわけですが、どのような方が芦屋町のために尽力されているのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

本年度より2名の常勤と2名の非常勤アドバイザーで外部人材のチームを構成し、みなと準備室を設置しています。

まず、統括責任者を企業からの派遣方法となる総務省の地域活性化起業人制度を活用し、日本航空から派遣してもらっています。国内外の支店長やマーケティングの経験を有してある方で、任期は本年4月1日から4年間の予定です。次に、実務を担うリーダー人材として公募を行いまして、1名を本年5月1日から登用しました。この方は北九州市内をはじめ各地の指定管理受託経験や地域活性化の実績を有した方で、任期は3年となります。なお、このお2人は広報8月号で紹介させていただいたところでございます。

その後、芦屋町が稼ぐ力を創出するための飲食・直売施設計画立案や芦屋産品の掘り起こし、売れる商品の開発のために専門的なノウハウが必要となったことから、総務省の地域力創造アドバイザー制度を活用し、道の駅や直売所の整備、商品開発や販路拡大分野を専門とし、福岡市を拠点に活躍している方を外部アドバイザーとして登用しました。併せて組織形成の支援を担うため、元北九州市職員で地域活性化に取り組んでいる方を外部アドバイザーとして登用しております。いずれも本年8月からで、月に数回来町してもらい活動してもらっております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

観光集客施設となる砂像の屋内展示施設は、長年イベントで取り組んできた砂像を室内に展示することで、長期間すばらしい砂像を多くのお客様に見てもらえる施設となると考えています。先日、鳥取市にある砂の美術館を視察したところですが、とてもすばらしい施設と展示となっていましたので、芦屋の施設にも期待をすところですが、しかし、この施設のことはあまり知られていないと思いますので、この施設の概要についてお尋ねをいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

砂像屋内展示施設につきましては、芦屋港活性化基本計画では観光集客のための全天候型施設と位置づけ、詳細については令和2年度～3年度にかけてウェブアンケートや観光動向調査をはじめとしたマーケティング調査やニーズ調査と様々な角度から検討を行ってきた結果、砂像の屋

令和4年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

内常設展示としたところでございます。この結果を踏まえまして、国の地方創生拠点整備交付金の採択を受け本年度から設計を行っているところで、令和6年度中の竣工の予定でございます。

施設運営の考え方につきましては、あしや砂像展でも制作・展示していますプロ彫刻家の作品を制作・展示するもので、毎年作品を入れ替える予定でございます。このため、制作や展示準備期間に3か月程度必要なことから、開業期間は9か月程度を想定しています。ただし、制作期間中も砂像文化の発信や港湾エリアに来訪された方の憩いの場、交流の場となるように工夫したいと考えています。また、鳥取市にある砂の美術館と連携し、鳥取市とは違った展示や運営とし、砂像ファンの拡大を双方で図ることも考えております。

なお、施設の運営を含めた詳細につきましては現在設計において検討中のため、節目節目で議員各位には経過報告をさせていただきたいと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

事業を推進していかれる中で発生した課題の解決状況と、それに伴って起こった新たな課題についてお尋ねをいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

先ほど答弁しました芦屋港活性化基本計画で示した検討課題が5つございましたが、そのうち1番目の港湾計画の改訂については令和3年4月に、一部変更という形でございますが福岡県で決定されております。その他の課題については令和2年度より芦屋町事業として国の地方創生推進交付金を活用して取り組みを進めており、管理運営方法や運営主体の考え方を整理しています。新たな課題につきましては、町内回遊の仕組みづくりや町内にお金が落ちる仕掛けを構築していくことと捉えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

今お聞きしました、町内回遊や町内にお金が落ちる仕掛けを構築していると回答いただいたわけですが、現時点で紹介できるようなものがあるのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

令和4年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

まだ検討中のため具体的にお示しできるものはありませんが、町内にお金が落ちるための考え方としては、特に飲食・直売施設は芦屋産品を中心に構成するとともに、今後設立する予定の運営組織が施設の経営を担うことを目指して検討しています。町外の民間企業が運営を担うと売上げ重視となり、地元産品の割合が減ったり町外に流出するお金が増えることが懸念されるため、できるだけ町内で担っていきたいという考え方になります。

町内回遊の仕組みづくりにつきましては、まず点と点を線につなぐ必要があります。このため情報発信やコンテンツづくりなどのほか、機運を高めることが重要だと考えております。このため、産業観光課等ほか各課連携した上で今後いろんな方策について検討し、取り組んでまいりたいと思っております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

3年前に発生をいたしました新型コロナウイルス感染症の影響については様々な分野に影響を及ぼし、事業計画の推進についても例外ではなく、変更を強いられているのではないかと推察をいたします。そこで、コロナによる影響や変更点についてお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、特に行動制限に伴いまして福岡県との協議調整や各種会議の開催ができずにスケジュールが遅れたり、機運醸成事業におけるワークショップが開催できず実施方法を変更するなどの影響を受けております。そこでスケジュールや実施方法を逐次見直ししながら、これまで進めてきたところです。

また、上屋の活用においては当初民間活力導入を掲げ市場調査など実施してきましたが、先ほど申しましたように新型コロナウイルス感染症の影響による経済の落ち込みや、先行きが見通せないなどの理由から民間事業者の投資や参入意欲がなく、効果的に事業を推進するためには民間活力導入を断念し、補助金を有効に活用した公共整備の方針に変更しております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。



○議員 6番 本田 浩君

それでは次に件名2として、レジャー港化が果たす芦屋町への効果についてお尋ねいたします。

要旨の1ですが、芦屋町の観光地は町内に点在しており、きらりと光る点が芦屋港レジャー港化に伴って線としてつながり、芦屋町への来町者の方が増加し、人の交流がにぎわうことで一定効果の影響を芦屋町に与えることになることから、お尋ねいたします。

まず、レジャー港化が目指している効果や、それに伴って期待できる効果についてお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

まず、観光集客が与える地域経済について御説明したいと思います。

国が示した観光交流人口増大の経済効果では、定住人口1名分の年間経済効果は国内日帰り旅行者79人分に相当します。社会的な人口減少の状況下、観光客の取り込みは地域経済を維持するために有効かつ必要であると言われております。

次に、芦屋町の観光入込客推計数につきまして、令和2年が約20万4,000人、コロナ前の令和元年は約61万1,000人となっております。遠賀中間地域では最も多く推移しておりますが、宗像・福津エリアと比較すると10分の1程度と非常に少なく、また観光消費額につきましては遠賀郡内他町よりも少ない傾向にあります。令和3年度に実施した観光動向調査では、町内においては回遊性が極端に低いことと消費額が非常に少ないことが分かりました。

そこで、レジャー港化ではさらなる集客のためにはリピーターの確保や町内回遊性を高め、お金を落とす仕組みをつくることが大切な視点だと捉えております。このような取組の効果として考えられることは、まず年間を通じた集客によって町内での消費額が増えることが期待できます。また、芦屋町のファンを増やすことで、来訪者に対して芦屋町の様々な施策を効果的に情報発信することで、関係人口の増や将来的な起業、移住・定住につなげることが期待されると考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

芦屋町を訪れられた観光客の方々が、農業・漁業の振興や商業の繁栄にどのようなつながるかについてお尋ねをいたします。

○議長 辻本 一夫君

令和4年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

観光客の消費行動におきましては、地域製品の購入や飲食は多くの割合を占めております。このため、計画している直売所では芦屋産品を中心とした商品構成や、芦屋ならではの商品構成が必要不可欠と考えています。特に海を生かしたレジャー港化では水産品を求める消費者が多いことが想定されます。そこで現在、芦屋産品の発掘や商品開発にみなと準備室が中心となり、取り組んでいるところです。この成果は直売所の販売のほかにも新たな販路開拓やインターネットを活用した販売、ふるさと納税返礼品としての活用など可能な限り拡大し、経済効果を高めていきたいと考えております。

また、港湾エリアに限らず町内各所で消費行動を起こしてもらうために町内回遊の仕掛けや仕組みづくりがとても重要だと考えておりますので、今後も商工会や漁協、農業者の方々と連携し、取り組んでいく必要があると考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

芦屋港に新たなにぎわいができることで、物品販売・飲食店などにおいて人の雇用が発生するものと考えられます。レジャー港での雇用創出の場として考えている点についてお尋ねをいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

レジャー港化においては町内での消費を高めるほかに、新たに施設ができることで雇用の創出を目指しております。必要人員など詳細の検討段階には至っておりませんが、想定される新たな雇用の場としては直売所や飲食店、砂像屋内展示施設、そのほかに運営組織の職員などが考えられるかと思えます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

雇用の場として砂像展示施設も考えてあるとのことでしたので、この施設についてお尋ねをします。

令和4年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

砂像制作では彫刻家だけではなく、それに関わる多くの人が必要となっております。また、鳥取砂の美術館を視察したところ多くのスタッフが案内など運営に携わっていたため、多くの雇用を期待するところです。この点について、どう考えているのかをお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

議員がおっしゃるように砂像制作におきましては型枠の制作、砂詰め、彫刻家の制作サポート、削った砂の除去や散水、型枠の片づけなど多くの作業工程と人員が必要となることが考えられます。屋内展示となることによってこれまでよりも作業が制約されることもあり、より多くの人員が想定され、これらの作業には一時的ではございますけど新たな雇用が考えられるかと思えます。また、砂像展示期間中の運営においては、お客様の案内や誘導、ガイド、清掃などのスタッフが想定されます。ただし、現在施設の設計を行っている段階ですので、詳細は今後検討していくこととなります。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

大変大がかりな施設建設ができることとなりますので、大勢の方々が訪れる集客人数の増加を期待するところであります。また、平日など芦屋町民の常日頃からの御利用にも大きく期待するところであります。

そこで、まず施設の規模や整備の考え方、集客についてお尋ねをいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

先ほど説明させていただきました現在整備が進んでいる施設について、計画時点の規模や集客について御説明したいと思います。

ボートパークにつきましては、船舶の大きさが様々なため係留隻数の前後が生じますけども、最大で170隻の計画をしております。浮棧橋による水上係留のみとなりまして、陸上には管理棟や駐車場が整備されることとなります。なお、海の玄関口として機能するようにビジターバースという一時的な係留ができる棧橋を設置する計画です。この施設は船舶の所有者の利用が主になりますが、同乗者や立ち寄り利用の来訪が期待できます。係留者の募集時期は未定ですが、一般社団法人日本マリン事業協会など業界団体と連携を図り、広く周知できればと考えております。

次に、海釣り施設につきましては新設される波除堤の上部を活用するもので、延長が約170メートル、幅員が約6メートルの釣りができる堤防となります。国土交通省の釣り文化振興モデル港に指定されておりまして、公益社団法人日本釣振興会と連携を図り、転落防止柵など安全対策を講じていきたいと考えております。集客につきましてはメインターゲットをファミリー層や初心者とし、周辺の施設と連携し海釣りのスタートアップの役割を担う位置づけとしております。利用時間や料金などは今後の検討事項ですが、計画段階では年間2,600人程度の集客を見込んでおります。

砂像屋内展示施設につきましては先ほど申しましたように、現在設計の中で検討を行っているところでございます。なお、集客については令和3年度までの検討におきまして、年間20万人の来場を見込んでいるところでございます。

以上です。

**○議長 辻本 一夫君**

本田議員。

**○議員 6番 本田 浩君**

では次に、新しい施設へのリピーターの確保と町民の利用についてはどのように考えておられるのかお尋ねいたします。

**○議長 辻本 一夫君**

芦屋港活性化推進室長。

**○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君**

エリア一帯での運営を行うため、全体の考え方について御説明をさせていただきたいと思えます。まず、観光集客においてはリピーターの確保が重要と捉えております。特に港湾エリアは通過型ではなく目的型となる必要がありますので、ほかにない魅力づくりやまた行きたいと思えるコンテンツ、芦屋ならではのコンテンツを生かし価値観を高めた「モノ消費」のほかにも、今注目されている「コト消費」の造成に取り組んでいきたいと考えています。

この「コト消費」というのは魅力的なサービスや空間設計などにより、お客様が時間を過ごす中で行う消費行動と言われておりまして、例えば散歩や余暇を楽しむついでに飲食や買物をする行動や、食事や買物に来たついでに砂像展示施設を見学したり、体験プログラムで時間を過ごしてもらおうといったような行動を指します。また、何度も足を運んでもらえる施設や環境づくり、「また行きたい。」と思ってもらえる施設運営も必要と考えております。

このためには、まず町民の皆さんに親しまれ日常的に利用してもらえる憩いの場、交流の場とすることが大切な視点であり、ワークショップなどでの意見聴取や機運づくり、情報発信に今後取り組んでいきたいと考えているところです。

令和4年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

芦屋町は決して大きな町ではありません。しかしながら、車で1時間程度の移動ができる周辺人口を考えたときに、北九州市、福岡市、そして遠賀川流域の筑豊エリアの各市町村と、大きな見込みがあると考えております。それを印象づけるものとして、先月3年ぶりに開催されました「あしや砂像展2022」に私自身も友人知人を現地に何度も御案内し、複数回見学をいたしました。また、その際に特に週末には町内で渋滞が発生しており、周辺市町村ナンバーや他県ナンバーの車も多く見かけました。福岡県内のみならず、他県にも芦屋町の観光スポットは認知されているものと思われま

す。今後の芦屋町周辺人口の取り込みや広域連携についてお尋ねをいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

現在の芦屋町の集客エリアは北九州地域が中心となっております。しかし、これまでの調査においても砂像屋内展示施設では福岡都市圏をはじめ県内外からの来訪が期待でき、県内を一次商圏として設定し、九州各県やインバウンドの取り込みも想定した整備を考えているところです。

今回、あしや砂像展のアンケート調査では地域別来訪率は北九州市が38.9%と最も多いものの、次いで福岡市が15.5%となっており、町内が3.6%、芦屋を除く遠賀中間地域で8.1%となっています。これをエリアで見ますと、福岡市を除く福岡都市圏で12.5%、筑豊地域で9.5%、県南部で8.5%と通常の芦屋町の集客エリアよりも県内満遍なく広域的に及んでいることが分かりました。また県外では山口県、佐賀県が1%程度と一定数あったところがございます。このため、プロモーション展開やウェブでの情報発信の準備を来年度から取り組む計画でございます。

次に広域連携ですが、北九州都市圏域や玄海地区といった既存の広域連携の枠組みを生かした相互の回遊性を高める取組やPR、物販などの充実に加え、砂像でつながりのある自治体と連携し、相互の集客に努める考えでございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

令和4年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

芦屋町の面積は福岡県内60市町村の中でも56番目として、決して大きな町ではありません。それゆえに町内にお見えになった方々が短時間で町内を周るという循環づくり、こういったものがとても有効に働くものと思います。

町内の回遊につながりがある取組について、お尋ねをいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

若干重複するところもございますが、来訪された方に町内を回遊してもらうことは非常に重要なことと捉えております。

令和3年度に実施した観光動向調査では、先ほども申しましたように町内各所での回遊性が極端に少なく、消費額が非常に低いということが分かりました。このため、議員御指摘のとおり町内を回遊してもらう仕掛けや仕組みづくりが、芦屋町の観光振興にとって重要な取組となると捉えております。現在、外部人材で構成するみなと準備室とともに検討しておりますが、今後は関係課や関係団体と連携していきたいと考えております。また、機運醸成事業ではテストマーケティングと言っておりますが、実効性を高めるための試行を行い、データを取りながらPDCAによって効果的な方法を見いだすことも行っていく予定でございます。

ちなみにでございますが、今回のあしや砂像展においてマリンテラスあしやの協力の下、ランチクーポンを会場で配布し実際にランチを利用された方にアンケート調査を行ったところ、チラシの配布枚数の約7%の方が利用していることが分かりました。また、年齢層や利用されない方の意見を聞くこともできましたので、これらも今後の検討に生かしていきたいと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

ここ最近の物価高騰が非常に気になるところです。大掛かりな計画であるがゆえに多額の建設資金をはじめとする投資額が計上され、回収についても一定の方向の試算が実施されておりますが、緊急的な値上がりについて今後対応する中で、最小の費用で最大の効果を上げる施策が構築され展開していくものと思われませんが、この費用対効果についてお尋ねをいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

施設整備におきましては、国の補助金や過疎対策事業債などの活用で最大限の財源確保に努め

令和4年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

ているところでございます。今後の物価上昇に対しても、補助対象となるよう努めていく考えで  
ございます。なお、福岡県事業においても国庫補助を最大限活用されており、先日も国の令和4  
年度第2次補正予算で防災・安全交付金が採択され、港湾のしゅんせつに活用されているところ  
でございます。また、施設整備によりまして毎年の運営費や維持管理、修繕などのランニングコス  
トが発生していきます。将来的な費用負担軽減を考慮し、施設整備においてはランニングコス  
トを低減できる工夫や自然エネルギーの活用など、時流に沿った施設となるよう設計を進めてい  
く考えでございます。

運営組織の形成についても一定の行政支援は必要となりますが、自主事業による収益確保によ  
り、将来的に自走できるよう検討を進めております。これらの検討や外部人材登用などのソフト  
事業においても、国の補助金や特別交付税措置のある制度などを最大限活用しているところで  
ございます。今後の事業推進においても財源確保に努めながら、効果を発揮できるよう努めていき  
たいと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

レジャー港は海を求める方々のにぎわいや、癒しの絶好の場所となると考えております。

そこで、今後期待される効果検証についてお尋ねをいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

効果検証ということでございます。令和3年度に観光動向調査を実施しまして、コロナ禍にお  
ける観光動向を把握することができました。また今年度のあしや砂像展におきまして、先ほど申  
しましたように従来のアンケートに加えましてレジャー港化に関する関心度などの調査項目も追  
加した中で、次年度以降も推移を測定できるようにしたところでございます。これらは先ほどお  
答えしたマリンテラスあしやのランチ利用に関するアンケート調査と併せて、今後の取組に活用  
していきたいと考えております。

観光動向のトレンドはすぐに変化するため、継続的に動向を把握する必要があると考えており  
ます。これは観光戦略を立案する上で重要となるマーケティング調査の1つとなると捉えており  
まして、このため、どの程度のスパンで実施するかは未定ですが、PDCAサイクルを確立する  
ためにも、継続的に観光動向を調査することで効果検証に生かしていくことが必要と考えており  
ます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

観光動向のトレンドは常に変化をしており、P D C Aサイクルを確立させた動向調査を実施し反映させることが重要になってきます。

コロナ禍以降は、海を含めた人が密集しない観光地への人気は向上しております。顧客満足やマーケティングの施策を考える中でパレートの法則（2対8の法則）というものがあり、これに基づいたデータ分析はビジネスのいろいろなシーンで活用されております。2割の御利用者が全体の8割の利用率を占めるというようなことでございますが、リピーターの中でもコアな芦屋町ファンづくりは観光町芦屋にとって重要な部分を占めることになるかと思えます。

今回の質問の冒頭で、海には癒し効果があると述べさせていただきました。海にはたくさんのマイナスイオンがあり、波が絶えず押したり引いたりしているため周囲の空気中に大量のマイナスイオンが放出されていると言われております。海辺に漂うマイナスイオンを大量に取り込むと私たちの体内では脳内ホルモンが分泌され、リラクゼーション効果も高くなり幸福感をもたらしてくれます。気持ちが疲れているときや生活時間の乱れが気になるときには、海沿いを散歩することは非常に体が喜ぶ運動のようです。

また日光を浴びることも、質問の冒頭に申しましたセロトニンと言われる神経伝達物質が分泌され、精神の安定や安心感や平常心、頭の回転をよくする効果があると言われております。体を動かすことでストレス解消や気分転換を図り、波の音を聞くと心地よく感じてリラックスできるのは、波の音は人間がリラックスしているときに出す脳波に近い周波数であると言われております。波の音と自分自身の持つリズムが調和することで、より一層の心地よさを引き出していると言われております。自分自身の心や体を整える絶好の休憩の場所として、空き時間に手軽な散歩ができる運動の場所として芦屋港へ訪れることが楽しみになります。また、地域住民の声を反映させた町民にとってリフレッシュ効果が大きなきわいの場所になることなど、芦屋港活性化推進室長より芦屋港の活用に関する基本構想をはじめ変更点や今後の未来に向けての海辺のにぎわいをお聞きしました。

今後、芦屋港が変化していくことを、わくわくした期待感を持って楽しみに、また世代を超えて子供や孫の世代が健康的に地域の海辺で遊んだり、食事をしたり、観光したり、友人知人を町内の観光スポットの1つとして案内できる場所として環境が順次整備され、楽しい時間を芦屋町内で過ごす1つの施設になることは、出来上がりが楽しみな時間になるかと思えます。

今回の質問を聞いていただきました波多野町長、こよなく芦屋町を愛しておられますので造詣



令和4年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

も深いと思いますので、波多野町長の幼い頃からの思いや現在進行している芦屋港活性化レジャー港がもたらす町民への楽しみや、様々な期待される効果などをお聞きしたいと思います。

○議長 辻本 一夫君

町長。

○町長 波多野 茂丸君

最後にこよなく、それは皆さんもこよなく芦屋町を愛されておると思います。それで今日まで長い間この問題につきまして少しずつ進んできたわけですが、本日は詳細に当たりまして本田議員よりいろんな疑問点、そしていろんな方が心配されていること、経済的なことを全てのお尋ねいただいたわけですが、もうこの取組を始めまして14年目になるわけですが、これまで議会においては芦屋港湾活性化特別委員会を設置していただきまして、県知事に意見書を2回提出されるなど、執行部と議会両輪で進めてきたところであります。

この芦屋町の将来、今の若い人、子供たちにとっての大事なふるさとでありますので、1つ1つ、少し年数はかかるか分かりません。おそらく日本経済がどうなるか分かりません。世界もどうなるか分かりませんが、これは我々がやらなくてはならないふるさとの思い、それから芦屋町の本当これだけの宝がたくさん、1つ1つお話すれば切りがないですが、全てが宝であります。海、まず海です。それから砂浜、遠賀川を挟んで山鹿からの岩場の千畳敷、それからまゆらの夏井ヶ浜、あそこは私たまに行くんですけど、天気のいいときに本当、御夫婦の方、お年を召した方があそこに座ってですね、弁当を食べる。本当に何か、ほっとする気がするわけですが。

今からの芦屋町は議会と一緒に、職員が今、一生懸命やっておりますので、いろんな外部人材を登用したり国に陳情したり、県に協力を仰いだりすることはですね、国会議員もそうなんです。県会議員の地元の方も非常にバックアップしていただいております。また、大きく変化することもあるかも知れませんが、その都度担当のほうから、まず議員の皆さんに御説明をしていきたいと思っております。町民の方にはですね、今まだ時期尚早だと思うので、いろいろ変わってくるかも知れませんが、こう言いよったけどこう変わった、こう言いよったけどこう変わった。ある程度の大筋が今はっきりしてるんですけど、これが確定した場合にさらに町民の方に伝えていきたいと思っておりますので、御期待いただきたいと思います。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

今、波多野町長にもですね、芦屋町のきらりと光るいろいろなお話を伺いました。

#### 令和4年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

私も前職のときにですね、窓口に芦屋町外の方々が市営バスを使って芦屋町にお見えになられたり、自家用車で芦屋町にお見えになられたりしたときに、郵便局の中に入って来られて「芦屋町の観光スポットを教えてください。」というようなことを何度も経験をいたしました。その中で、やはり芦屋町はとても小さな町ではありますがけれども、きらりと光るものがたくさんあると思います。

今日は芦屋港活性化のことについてお尋ねいたしましたけれども、今後も芦屋町全体として芦屋町がPRでき、町民の方々が楽しめるまちづくりができればいいのかなというふうに大変思っております。今後の進捗状況が地域住民に広報あしや等を通じて十分に周知され、浸透していくことを望みまして一般質問を終わらせていただきます。

#### ○議長 辻本 一夫君

以上で、本田議員の一般質問は終わりました。